

令和8年度 学校自己評価計画書

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評 価 の 観 点 | 実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準 | 判 定 基 準 | 備 考 |
|--|---|---|--|---|--|--------------------------|--------------------------|
| 1 教育活動全般を通して、失敗を恐れずチャレンジする心を育み、未知の領域へと踏み出す勇気と決断力を養う。 | ① 繰り返し自己の目標を設定・確認を行わせ、且つ、学校内の要所に「チャレンジ」することを推奨するポスターを掲示することで学校全体の機運を高める。 | 教頭 | 生徒は温和で真面目であるが、高い目標の設定が苦手であり、本来備わる自己の能力を発揮できていない生徒が多数見受けられる。効果的で継続的な働きかけにより、高みを目指すことを臆することなく掲げられる雰囲気醸成が必要である。 | 【努力指標】 学期ごとに行う生徒アンケートで、すべての学期で80%以上生徒達が「チャレンジをした」と評価できた場合、目標達成とする。 | 「何かにチャレンジした」の項目においてA、B評価の合計が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 生徒による学校評価アンケートで評価 |
| | ② 「総合的な探究の時間(NFT)」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。 | NFT推進課 | 「主体的」「探究的」「協働的」な取組のうち、今年度は「探究的」態度をさらに伸ばしたい。 | 【満足度指標】 生徒がNFTの活動に対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組むことができたと感じている。 | 生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 年度末の振り返りの時間にアンケートを実施して評価 |
| 2 ICTの効果的な活用を通じ、「主体的・対話的で深い学び」を表現するための授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。 | ① ICTの効果的な活用とともに、研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。 | 教務課 | 授業において生徒がChrome bookを利用できる頻度は増え、生徒による後期授業評価アンケートの「効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている」の項目でA評価は54.2%であった。さらに効果的なChrome bookの活用を各教科で研究し、授業改善を図る必要がある。 | 【努力指標】 これまで以上に全教員がICTを活用した授業を実践し、研究授業や相互参観授業に取り組む、授業評価におけるA評価を60%以上にする。 | 「効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている」の項目においてA評価が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 生徒による授業評価アンケートで評価 |
| | ② 「主体的」「探究的」「協働的」な取組のうち、今年度は「探究的」態度をさらに伸ばしたい。 | NFT推進課 | 「主体的」「探究的」「協働的」な取組のうち、今年度は「探究的」態度をさらに伸ばしたい。 | 【努力指標】 学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するようにこれまで以上に、質の高いグループ活動及び探究的な学習活動を実施する。 | 「授業を通じて学力がついてきている」という肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 生徒による授業評価アンケートで評価 |
| | ③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。 | 教務課 | 生徒による学習時間量調査の結果によると、目標を達成している生徒の割合は11月調査で39%であった。すべての学年で改善のための方策を検討していく必要がある。 | 【成果指標】 目標とする家庭学習時間を「学年+1時間」に設定し、達成する生徒の割合を40%以上にする。 | 家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 60%以上 B 40%以上 C 20%以上 D 20%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 家庭学習時間量調査で評価 |
| | ④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をもって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける。 | 進路指導課 1・2学年 | 昨年度1月の校外模試で3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合は、1年は27.7%、2年は31.9%であった。 | 【成果指標】 1、2年1月の校外模試で3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が、40%以上を目指す。 | 1、2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 40%以上 B 35%以上 C 30%以上 D 30%未満 ※1・2年別に達成を判断する | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 当該模試の結果で評価 |
| | 進路指導課 3学年 | 昨年度3年の10月校外記述模試で平均偏差値50以上の生徒が24.2%、11月共通テスト模試で総合偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が12.8%であった。 | 【成果指標】 3年10月校外記述模試で平均偏差値50以上の生徒、11月共通テスト模試で総合偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が、それぞれ、30%以上を目指す。 | 10月の校外記述模試平均偏差値(文系国数英・理系数英理)50以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満 11月の共通テスト模試総合偏差値(文系6-9型、理系6-8型)52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 25%以上 B 20%以上 C 15%以上 D 15%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | | |
| | 進路指導課 | 昨年度の合格者数は①難関国立大学1名、金沢大学12名、②北信越地区国立大学64名、③北信越地区国公立大学123名であった。 | 【成果指標】 右の①～③の評価項目をすべてクリアすることを目指す。 | ①難関国立大学、金沢大学に10名以上合格 ②北信越地区の国立大学に40名以上合格 ③北信越地区の国公立大学に合計90名以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 年度末の実績で評価 | |
| 3 組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人た | ① 挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体が明るくなるよう活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。 | 生徒課 | 昨年度は、生徒アンケート結果から約83%の生徒が積極的に挨拶を行ったと自己評価していた。年々挨拶実施状況の自己評価が低下しており、その大切さや必要性を集会や登校指導等で訴えて定着させることが求められる。 | 【成果指標】 学期ごとに行う生徒アンケートで、すべての学期で90%以上生徒達が挨拶を実行できていると評価できた場合、目標達成とする。 | 生徒アンケートから、「積極的に挨拶を行った」が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 | C、Dの場合、指導方法を分析し、方策を検討する。 | 年度末の実績で評価 |

| | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|---|--|---|---|--|--------------------------|--------------------|
| る判断力・行動力を養う。 | ② | 様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。 | 生徒課 | 今年度から道路交通法改正により、違反に対する青切符制度が導入され、生徒個々のより厳格な規範意識が自転車乗車時に求められる。年間通して登下校時での交通安全指導及び呼びかけを校門前で実践していきたい。 | 【成果指標】 昨年度は自転車乗車事故が15件発生しており、今年度は年度末の自転車乗車事故数10件以内を目指す。 | 自転車乗車違反件数が、年度末累計で、 A 6件未満 B 10件以下 C 10件以上 D 20件以上 | C、Dの場合、学年累計を分析し、次年度の当該学年の指導を徹底する。 | 年度末の実績で評価 | |
| | ③ | いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。 | 生徒課 | 昨年度のいじめ案件は1件認知で経過観察中である。生徒アンケートの「互いに尊重し合える居心地の良い学校であるか」の問いかけには約93%の生徒が「はい」という回答であった。 | 【成果指標】 生徒アンケート結果において90%以上の生徒達が居心地の良い学校であると回答すれば、達成とする。 | 「互いを尊重できる居心地の良い学校であるか」のアンケートから、肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、指導の在り方や方策を検討する。 | 生徒による学校評価アンケートで評価 | |
| | ④ | 健康に関する自己管理能力を高めるために自らの健康状況をしっかりと把握する。 | 保健相談課 各学年 | 昨年度の健康観察の回答率は平均して70%である。月によって回答率にばらつきがある。 | 毎月の健康観察の回答率をもとに1年間を評価する。 | 健康観察の回答率が年間で A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 年度末の実績で評価 | |
| 4 | 文武両道の実践を通して部活動を効率化・活性化し、心身の錬磨により人間力を高め、飽きなきチャレンジ精神を培う。 | ① | 運動部・文化部の活動環境の支援及び改善を図りながら活動内容を充実させる。 | 生徒課 | 昨年度、後期生徒アンケートで、「充実感や達成感を感じられる部活動を行っている」と答えた生徒は、約91%であった。3年間の継続を目標に、限られた時間を有効に使い、生徒が達成感を感じられるような活動にする。 | 【満足度指標】 部活動加入者に対するアンケートの満足度を85%以上にする。 | 「充実感や達成感を感じられる部活動が行えているか」の肯定的評価が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 生徒による学校評価アンケートで評価 |
| | | ② | 運動部・文化部ともに計画的かつ効率的な練習を行い、好成績につなげる。 | 生徒課 | 昨年度の県高校総体総合成績は21位であった。また、文化部の年間獲得症状枚数は18枚であった。運動部、文化部とも部活動への取り組みをより充実させて昨年度以上の活躍を期待したい。 | 【成果指標】 (運動部) 年度末の県高校総体総合成績の順位によって評価する。 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。 | 運動部) 県高校総体総合成績が A 15位以内 B 20位以内 C 25位以内 D 25位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 25枚以上 B 20枚以上 C 15枚以上 D 15枚未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 年度末の実績で評価 |
| 5 | ボランティア活動や積極的な情報発信を通じて、保護者・地域との連携を深め、信頼と支援に支えられた学校づくりを推進する。 | ① | 学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。 | 副校長 教務課 総務課 各学年 | 保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は88.9%であった。 昨年度、教育ウィーク、進路説明会、西高祭等の来校者数は2,551名であった。しかし昨年度は979名である。 | 【満足度指標】 学校の情報提供による満足度を90%以上にする。 【努力指標】 感染対策を講じながら、教育ウィーク、進路説明会等の来校者数を増やす。 | 「学校の情報提供は十分に行われている」という保護者が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 教育ウィーク、進路説明会、西高祭等での来校者のべ人数が A 1000名以上 B 800名以上 C 600名以上 D 600名未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 保護者による学校評価アンケートで評価 |
| | | ② | 主体的な学習の基盤となる豊かな知識と思考力・判断力を身につけるため、各分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。 | 総務課 | 昨年度の図書館の貸出冊数は、生徒1人当たり0.91冊であった。 | 【努力指標】 生徒の読書活動を促進する。 | 図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末までで A 3冊以上 B 2冊以上 C 1冊以上 D 1冊未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 年度末の実績で評価 |
| | | ③ | 学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。 | 生徒課 | 昨年度、金沢マラソンのボランティア参加人数を含め、図書読み聞かせ、吹奏楽の保育園出張部ランディア等、計159名の参加があった。 | 【努力指標】 生徒のボランティアへの関心を促進し、生徒への機会提供を明確に行う。 | ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動の人数が A 150人以上 B 120人以上 C 80人以上 D 80人未満 | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 | 年度末の実績で評価 |

| | | | | | | | |
|---|--|---|---|--|--|---------------------------------|-------------------------------|
| 6 | <p>「教職員 の多忙化 改善に向 けた取組 方針」に 基づき、 業務の平 準化や見 直しによ る時間外 勤務の縮 減を進め 、ワーク バランス を重視し た学校マ ネジメント を推進す る。</p> | <p>① 定時退庁日等の 設定や会議の効 率化を図り、タ イムマネジメ ントの意識を高め る。また、ワーク ライフバランス を常に意識し、 具体的な取組を 実践する。</p> | <p>教頭</p> <p>昨年度の教職員へのアンケート結果は67.3%であった。多忙化改善に向けた教職員の意識は向上し、工夫がなされているようである。さらに教育の質を落とさず、時間外勤務を縮減させる具体的な取り組みを実践する必要がある。また業務のIT化により効率がよくなりつつある。</p> | <p>【努力指標】 具体的な取り組みを提案・実践し、教育の質を落とさず、時間外勤務を減少させた教職員の割合を増加させる。</p> | <p>具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満</p> | <p>C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。</p> | <p>教職員へのアンケートおよび勤務時間調査で評価</p> |
| 7 | <p>刻々と変 化する状 況を的確 に判断し 、自らの 身を守る ための最 善の安全 行動を選 択・実践 できる「 主体的な 行動力」 を養う。</p> | <p>① 被災地の県民として復興の歩みと防災の知恵を学び、不測の事態に際して自ら判断し行動できる防災意識を醸成する。</p> | <p>総務課（防災担当）</p> <p>能登半島地震の発災から2年が経過し、今も復興の半ばであることや、それを題材・教訓として、教室に「創造的復興」のスローガンを掲げ、防災意識を啓発する。</p> | <p>【努力指標】 生徒の防災意識を喚起するとともに、災害・防災に関連する活動への参画を促す。</p> | <p>「災害・防災に対して意識を高めることができた」の項目においてA、B評価の合計が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p> | <p>C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。</p> | <p>生徒による授業評価アンケートで評価</p> |